

第2学年 * 組		国語科 学 習 指 導 案	
平成24年 * 月 * 日 (*) 第*校時		2年*組教室	
育成する国語の能力		指導者 田口 礼美	
単元名	物語		
単元目標	<p>○物語文学の変遷を理解し主体的に教材に関わろうとしている。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○物語の登場人物の言動から、心の動きを読み取ることができる。 (読む能力) (C「読むこと」(1)のウ)</p> <p>○物語に表れた先人の思想や、歌の役割を理解することができる。 (知識・理解) ([伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の(1)のア(ア))</p>		
単元の評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
	平安時代の物語を読んで、現代の物語との違いを味わいながら、主体的に作品に関わろうとしている。	登場人物の言動から、心の動きを読み取っている。	歌の解釈や登場人物の心情読解を通して、当時の人々の思想や、歌の役割について理解している。
取り上げる言語活動	登場人物の言動や歌の解釈を手掛かりに、人物の心情や思想について考察し意見を発表する。		
題材(教材)	『伊勢物語』 第五段 通ひ路の関守		
単元(教材)について	<p>(1)教材観：障害の多い恋愛の中で、男が相手の女を思って詠んだ歌が周囲の人間の心を動かし、事態が好転していくという展開に着目すると、和歌の持つ力を示した「歌徳説話」と読むことができる。これに関連して、当時の人々にとって和歌とはどのような役割やどれほどの影響力を持つものであったかを知ることによって、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。</p> <p>(2)生徒観：物語の場面設定や登場人物の相互関係、話の展開は把握できている。また、歌の解釈をする過程で詠み手の心情について問うと、積極的な発言も見られ、発言内容も本文の趣旨と合致している。一方、歌を受け取った相手の心情については現代語訳そのままの理解にとどまり、それ以上深く考えられていない。</p> <p>(3)指導観：生徒の実態をふまえ、文法については助動詞の意味や活用形を細かく問うことはしないが、現代語訳の過程で避けられない「副詞の呼応」や、歌の解釈に影響する「願望の終助詞」、係結びの例外「結びの省略」については板書で解説し、微妙な意味合いの違いに注意しながら現代語訳へ反映させるようにする。また、登場人物の置かれた状況や心の動きについて生徒が想像し、相互に意見交換ができるように、場面ごとに指導者から質問を投げかけたり、共通の課題を与え、その取り組み結果を全体で発表をさせたりする機会を設ける。</p>		
指導計画(学習計画)	主な学習活動		主な評価
	<p>1 出典となる『伊勢物語』という作品について、文学史的位置付けを復習する。</p> <p>2 教材文を指導者の後に続いて音読する。願望の終助詞「なむ」や「え入らで」の訳について説明を受けながら、本文を一文ずつ正確に口語訳し、大意を把握する。</p> <p>3 「人知れぬ」の歌の解釈や、歌を受け取った女とその親の心情について考え、本段の歌徳説話性を理解する。同時に、平安時代における歌の役割について理解する。</p> <p>4 関連する話として「芥川」や「東下り」を読み、藤原高子と在原業平の関係について説明を受ける。</p>	<p>・内容に関する指導者の質問に、答えようとしている。 (関心・意欲・態度)</p> <p>・願望の終助詞「なむ」と副詞の呼応「え〜(打消)」を理解している。</p> <p>・「歌徳説話」という物語の形態を理解している。 (知識・理解)</p> <p>・場面設定や登場人物の言動など、物語の大意を把握している。 (読む能力)</p>	

本 時 案 (第3時)

本時の目標	○男が詠んだ歌の解釈を手掛かりに、女やその親の心の動きをつかみ、歌の影響力を読み取ることができる。 (読む能力) (C「読むこと」の(1)のウ) ○「歌徳説話」について知り、歌の役割を理解することができる。 (知識・理解) (〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)のア(ア))
-------	--

学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 前時までの流れを振り返る。 2 本時の目標を知る。	○前時の復習を簡単に板書する。生徒には書かせず、黒板に注目するように指示する。 ○生徒が前時の内容を復習できるような簡単な質問を投げかける。 ○本時の目標を板書する。生徒にはワークシートを配布し本時の目標を書かせる。	
男が詠んだ歌の影響を受けて、登場人物の心情がどのように変化したかを捉える。		
3 女とあるじの心の動きについて考える。 (1) 「いといたう心や」んでいる女の心の声を、自分の言葉で分かりやすく説明する。 (2) 「あるじ許してけり」について、あるじはなぜ二人の密会を許したのかを考える。	○「心やみけり」の意味について、教科書の注釈で補いきれない部分を解説する。 ○ワークシートの設問1に取り組む。まずは個人で考え、意見をシートに整理するよう指示する。 ○作業中は机間指導。質問への対応と、手が止まっている生徒への助言を行う。 ○個別作業終了後は、全体で意見を発表させる。最初は挙手制、手が挙がらなければ指名する。 ○ワークシートの設問2について考えさせる。	○歌を詠んだ男の心情と、歌を受け取った女の心情を読み取っている。 (読む能力) <記述の点検> ー努力を要する生徒への手立てー あらすじや歌の解釈を再度解説し、女の心情に関心が向くようにする。 ○登場人物の心情の変化は、男の歌が契機となっていることを理解している。 (読む能力) <記述の点検> ー努力を要する生徒への手立てー いろいろと違った見方があっていいので、様々な視点から検討するように助言する。
4 「歌徳説話」という話の形態を知り、歌の役割や影響力について考える。	○本文は「歌徳説話」として読むことができることを説明する。 ○過去に扱った教材の中から、平安時代の人々にとっての歌の役割や影響力について示唆する内容のものを紹介する。	○「歌徳説話」を理解し、歌に対する先人の価値観を理解している。 (知識・理解) <応答の観察> ー努力を要する生徒への手立てー 男の歌が周囲の人の心を動かし、女との再会が叶ったことを再度説明する。